

第9号

定価1年間300円  
組合員の購読料は  
組合費に含む



発行 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1  
Tel. 0139(52)0858 FAX (52)1490  
発行責任者 石橋英敏  
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

# 「戦場」をどう教えるか

八月六日。この日は、やはり忘れてはならない日でしょう。そして、ただ忘れてはならない日ではなく、その日に何が起り、一般市民がどのような状態におかれたのかということも同時に考え、八月は「戦争を考える月」にしたいものです。とくに、昨今の情勢を考えると、先達の痛恨と深い反省に立った「教え子」を再び戦争へ送らない」というスローガンを引き継ぐ教職員として、子どもたちと一緒に「戦争」を学ぶことはとりわけ重要です。

「戦争」だけでなく「戦場」を・・・歴史を学ぶ上で、「戦争」は、避けて通れないできごとです。何年にどういう「戦争」があったかということとは、いろいろな教科書にできごととして列挙されています。その「戦争」は、どうして行われたのか、どのような大義があったのか、そして、どうなっていたのか、史実として深く追求し、捉えることは欠かせません。

そして、その「戦争」のこととともに、忘れてはならないのが「戦場」のことではないでしょうか。「戦場」は、どんな状態になっているのか、どんなことが行われたのか、人々はどうなっているのかなど、子どもたちとともに「戦争」を考える上で、「戦場」の真実を学ぶことは、欠かせません。

その中で「勇ましき」に隠され、ないがしろにされた人々が「戦場」でどうなっていたのかということ

を明らかにすることに、目を背けず、向き合うことが重要です。とくに、第二次世界大戦の「戦場」のことを語り継いでいくことは、とりわけ重要です。しかし、時が経つにつれ、その体験者の方々が少なくなっていく現状もあります。

そんな中、NHKでは、語り継ぐ方々を記録に残し、特集アーカイブス「戦争証言」として、ネット上の動画で無料公開しています。その中の一人、地上戦の戦場になった沖縄の女性、並里千枝子さんは当時の様子を生き々しく、証言しています。

**極度の緊張状態の中で**

並里さんが語ったことは、差し迫る戦火の中で、行き場をなくした住民達が、日本兵が立てこもる地下壕



証言する並里さん

の中でできごとです。並里さんは当時九才。極度の緊張状態の中で、母と共に生後六ヶ月の弟と地下壕に入りました。そんな中、その弟が突然泣き出したのです。その時、地下壕で起きたことを語りました。

**撃てなかつた若者・・・**

「みんないらつてますよ、子どもが泣いて。。。だから、住民の人たちも、あの子をどうにかせよ。。。日本兵はよけいいらつてはすからね。。。それで、自分で撃たないで、そういう義勇兵(自発的に軍に参加した兵)。。。いくつぐらいなされたのか。。。二〇才ぐらいじゃなかつたかなと思っただけ。。。日本兵は) 撃てなかつたけど、その義勇兵の若者は)撃てなかつた。。。」

**乳飲み子を乳房に押しつけて・・・**

そして、その撃てなかつた若者は、日本兵から暴行を受けたのです。それを目にした並里さんの母親は、乳飲み子の弟の顔を息ができないくらい強く自分の乳房に押し当て、窒息死をさせたそうです。

「日本軍も怖かったです。前に会った日本軍とは全然違います。あの緊張感。。。あの空気の中っていうのは、言葉で話せないです。。。文字にもなりません。。。その状況の中で母は、(弟を)殺してしまつたんですね。。。赤ちゃんでもすごい抵抗があつた。。。それがたまらない。。。」

並里さんのお母さんは、死ぬまでその時のことを思い出すたびに体調を崩し、並里さん自身も癒えることのない深い傷を心に残しています。

戦後、平和憲法のもと、日本では戦争で亡くなった人はいません。先達が大切に守り続けた「平和」を享受していません。そして、次の世代にも、その「平和」のバトンを引き継がなければなりません。その一つとして、「戦場」で起こったことを語る体験者の声を聴き取り、

**「楽しくわかる 憲法の話」**

**小森陽一氏が 江差に来る!**

プロフィール: 1953年生まれ 東京出身 日本文学者 東京大学大学院総合文化研究科教授。夏目漱石、宮沢賢治、大江健三郎の研究など、著書多数。姜尚中さんや雨宮処凛さんとの共著もある。

日時: 8月18日(日) 15:00~16:30

場所: 江差文化会館小ホール [資料代として300円]

暮らしの中で、日本国憲法は、空気や水と似ていると言われます。その日本国憲法。実はその大切さはあまり知られていません。是非この機会に学びませんか!

主催: 小森さんの熱弁を聴く会 (事務局 0139-52-0858 中山)

後援: 江差町教育委員会

子どもたちとともに「戦場」を学ぶことは、やはり重要です。なお、このNHKの「戦争証言」は、インターネット上の動画で無料公開しています。

平和憲法である「日本国憲法」について、決断が迫られるときが来るかも知れません。「あのとき、勉強しとけば良かった・・・」ということにならぬよう、今から少しずつ学び合いませんか? (資料代としてチケット300円です。)この機会に是非!

**小森さんの熱弁の聴く会事務局**  
(0139 - 52 - 0858) 中山まで

# 2013 年度檜山合同研究集会

～領域問題別集会～

研究主題 「どの子にも確かな学力と自立・連帯の力を」

- 基本課題
- ◆ 平和と真実をつらぬく民主教育の確立
  - ◆ 子どもと地域に根ざす教育課程の創造
  - ◆ 地域に開かれた学校づくりの推進

「立ち止まって考え合おう！～子どものこと、学校のこと、地域のこと～」

日時：8月31日(土) 13:00～17:40

場所：乙部町 生きがい交流センター

## 全体実践発表

### 「道徳について実践報告」

乙部中学校 小菅正勝

学校全体で取り組んだこの実践発表(民間教育団体で発表)を聞いた先生達が、「なるほど」「もう一度聴いてみたい」と語った実践です。大津市で起きたいじめ事件は、文科省指定の道徳推進校でした。にもかかわらず、「いじめが起きるのは学校でしっかり道徳を教えてないから」と決めつけ、「道徳」を教科にし、子どもたちの価値観を評価するという教育政策が進もうとしています。そんな中、価値観の押しつけにならないよう細心の注意を払い、「道徳は個人の内面的な原理」ということを踏み外さない実践報告です。ご自分の失敗談を交え、謙虚で、実直な発表に、きっと、共感の輪が広がることでしょう。

## 日程

13:00	13:20	14:20	17:40
開会集会	全体発表	領域・問題別分科会	

## 分科会

分科会名	内容
学級作りと生活指導	子どもの実情を交流しあい、現状をつかみましよう。学級づくりを通じて、子どもの成長・発達に寄り添う実践とは何かということを実践レポートを持ち寄り、ともに成長するための糸口を語りあいましよう。
職場づくり	職場の現状・教職員の人間関係や労働の実態を交流し、働きやすい職場づくりのために何ができるか語りあいましよう。
保護者地域関係づくり	「保護者との関係がうまくいかない」「生活が大変そうで、保護者と子どもの話ができない」などの声が聞こえてきます。今困っていることを出し合い、「保護者や地域との共同」を探る手掛かりを語り合いながら、見つけましよう。
「いじめ」「不登校」「教育困難」	今困っていること、そして、経験談を語りながら、育つ中で困難を抱える子どもたちの発達・成長を支えるための糸口を探っていきましよう。
「複式学級」の指導	昨年度から始めた分科会。複式で困っていることを出し合いながら、「複式だからできること」を探っていきましよう。

どなたでも、参加できます！

問い合わせ(0139-52-0858) 檜山合研をすすめる会事務局：中山まで